

スルメじゃないよアブライカ

令和2年1月7日、伊豆漁協西伊豆統括支所に伺ったとき、支所長から「スルメイカに似たイカが獲れたが、何イカなのか分かるか？今年によく見かける」と蓄養水槽で泳ぐ1匹のイカを掬い上げて見せてくれました。胴体が短いスルメイカ、といった印象で、当初、奇形または成長不良個体だろうと思いました。生かしたまま研究所に持ち帰り、よく観察してみましたが、やはりスルメイカにそっくりだったため、「成長不良のスルメイカ」と判断し、しばらく研究所の水槽で飼育することになりました(図1)。外套長は16cm、体重は190.9gでした。



図1 研究所搬入時の様子 胴が短いことを除きスルメイカに酷似

翌日、水槽を見るとイカがかなり弱っていたため、斃死して内臓が損傷する前に解剖することになりました。内臓を観察したところ、スルメイカであれば肝臓が大きく発達しているはずですが、このイカの肝臓は小さく、少し違和感を覚えました(図2)。また、皮を剥ごうとしたところ、厚くぶよぶよしており、明らかにスルメイカの皮とは異なる触感でした(図3)。これはスルメイカではないと確信し、改めて文献等を調べ直したところ、腕や漏斗溝の形状から「アブライカ *Nototodarus hawaiiensis*」であるとの結論に達しました。分布域は日本～フィリピン、オース

トラリア、ハワイ、チリ沖とのことですが、学名に「ハワイ」が入っていることから、南方系であることがわかります。黒潮が大蛇行流路であることから、黒潮に乗って南方系の生物が静岡県沿岸に迷入しやすくなっているのかもしれませんが。

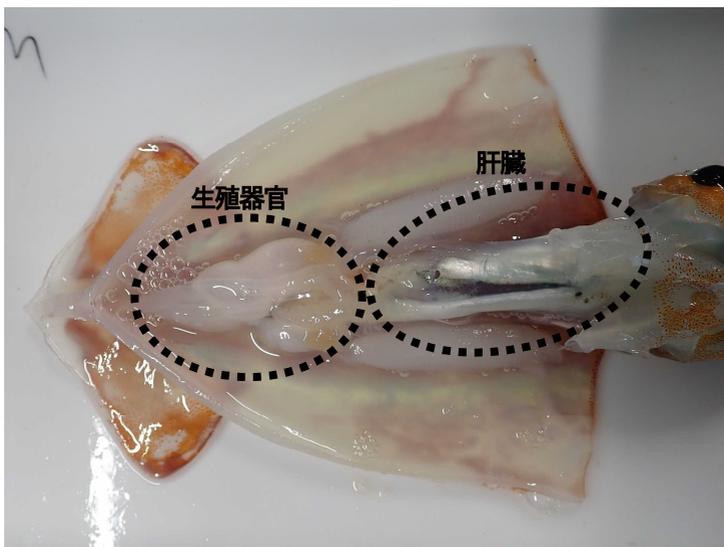


図2 内臓の様子 ※生殖器官の形状から雄個体であった



図3 厚くぶよぶよした皮

(鈴木勇己)